

堺市依存症地域支援計画（案）

【パブリックコメントを受けての修正】

	旧	新
第 2 章 堺市の現状と課題 > 2. 市民意識行動調査およびインタビュー調査の結果		
P24	—	ゲーム症/ゲーム障害についてのコラムを追加
P32	—	図表 52 の下に注釈を追加 ※「(6)依存とストレスや自殺の関連性について」の調査結果は、お酒、薬物、ギャンブル等、ゲームなどの物質や行為そのものが自殺に直結すること（因果関係）を示したものではありません。お酒、薬物、ギャンブル等、ゲームなどに関して生じる問題の背景に、「死にたいと思うほど悩む」「死のうと思ったことや、行動に移そうとした」ほどの生きづらさや生活上の困難などが隠れていることがあります。依存症対策を推進する上では、このような認識のもとで取り組んでいくことが重要と考えます。

【その他、表現方法、言葉の精査による修正・追記】

	旧	新
第 2 章 堺市の現状と課題 > 2. 市民意識行動調査およびインタビュー調査の結果		
P17 3 行目	ギャンブル等については、66.5%が経験ありと回答しており、特に多いのは「パチンコ・スロット」「宝くじ（ロト・ナンバーズを含む）」となっています（図表 28）。	ギャンブル等については、66.5%が経験ありと回答しており、 そのうち、この 1 年間にギャンブル等に参加した人は約半数となっています。参加したことのあるギャンブル等の種類はどちらも「パチンコ・スロット」「宝くじ（ロト・ナンバーズ含む）」「競馬」が多くなっています（図表 28,29）。
P17	—	図表 28「ギャンブル等の参加経験」の後に、「この 1 年間に参加したギャンブル等」の図表を追加
P33 7 行目	【インタビューからみえてきた課題】 依存症の本人やその家族から聞き取った内容をもとに、以下、本市の課題をまとめました。	【インタビューからみえてきた課題】 依存症の本人やその家族から聞き取った内容をもとに、以下、本市の課題と 必要な取組 をまとめました。

第2章 堺市の現状と課題 > 3. 堺市の現状を踏まえた課題と検討すべき取組		
P34	3. 堺市の現状を踏まえた検討すべき課題	3. 堺市の現状を踏まえた <u>課題と検討すべき取組</u>
P34	(1) 市民への依存症の理解促進と予防教育、早期発見・対処の必要性	(1) 市民への依存症の理解促進と予防教育、早期発見・ <u>早期介入の推進</u>
P34 (1) 7行目	そして、児童青年期に依存性のある物質や行為を経験する人も多く、依存のきっかけとなることもあるため、若い世代を含む市民への予防教育や依存症に至るまでのさまざまな問題（家庭問題、学校問題等）に対して早期に発見して、包括的に介入することが重要です。	そして、児童青年期に依存性のある物質や行為を経験する人も多く、依存のきっかけとなることもあるため、若い世代を含む市民への予防教育が 必要です。また、さまざまな問題（家庭問題、学校問題等）に直面し生きづらさを抱える中で依存に至ってしまうこともあり、背景の問題にも包括的に介入することが重要です。
第3章 本計画のめざすもの 2. 基本方針		
P36 基本方針3	依存症という病気にならないように、進行し問題が深刻化・重症化しないように、回復のための支援や治療を継続し依存症による問題が再び起こることのないように、依存症の支援機関をはじめ、保健、福祉、教育等の庁内関係部署および地域の関係機関とのさらなる連携強化をし、各段階において市民のニーズにあった相談を受けることのできる体制の構築をめざします。	<u>市民のニーズにあった相談を受けることのできる体制構築のため、依存症の支援機関をはじめ、保健、福祉、教育等の庁内関係部署および地域の関係機関のさらなる連携強化を図り、依存症という病気にならないように、進行し問題が重症化・深刻化しないように、回復のための支援や治療を継続し依存症による問題が再び起こることのないように、予防の取組を推進します。</u>
P36 基本方針5	基本方針5 今後の新たな依存症対策にも対応できる体制整備を図る	<u>基本方針5 新たな依存症対策にも対応できる体制整備を図る</u>
P36 基本方針5	依存症の問題は社会情勢にあわせて変化し、近年ではアルコールや違法薬物、ギャンブル等以外にも多様な依存関連問題について問題視されています。国の動向を踏まえつつ、関係機関との連携強化および依存症支援の拡充を図り、関係機関と協力しながら新たな依存に対応できる体制の構築をめざします。	依存症の問題は社会情勢にあわせて変化し、近年ではアルコールや違法薬物、ギャンブル等以外にも多様な依存関連問題について問題視されるなど、 <u>新たな依存症に対応していく必要があります。国の動向を踏まえつつ、関係機関との連携強化および依存症支援の拡充などの体制整備を進めます。</u>
第4章 取組の推進		
P38 1行目	本市では、基本理念の実現のため、5つの基本方針に基づき、2つの目標を掲げ、依存症の発生、進行、再発の各段階での予防の取組に加え、自殺予防に関する5つの重点取組について推進していきます。	本市では、基本理念の実現のため、5つの基本方針に基づき、2つの目標を掲げ、依存症の発生、進行、再発の各段階での予防の取組に <u>自殺予防を加えた</u> 5つの重点取組について推進していきます。

取組 1 依存症の予防に関する取組 > ○すべての人が孤立せず健康的な生活を送るための支援の充実		
P40 表右 1 行目	【主要取組】 相談機関一覧の発行と配布 ※P41 上表右 3 行目 再掲あり	【主要取組】 相談機関一覧 (悩み相談) の作成 ※P41 上表右 3 行目 再掲あり
取組 2 早期発見・早期治療に関する取組 > ○依存症に対する誤解や偏見をなくし、いつでも支援につながるができる地域の構築		
P41 表左 1 行目	依存症や依存症になった方に対する誤解や偏見をなくすため、依存症に対する正しい知識や情報の普及活動をすべての機会を通じて実施します。	依存症に対する誤解や偏見 をなくすため、正しい知識や情報の普及活動を さまざまな機会 を通じて実施します。
取組 3 依存症の治療・回復に関する取組 > ○治療、回復支援の充実		
P42 表左 1 行目	本人や家族の治療や回復を促進するため、支援者の資質向上や治療、回復支援の充実に向けた取組を推進します。	本人の治療や回復および家族の支援 を促進するため、支援者の資質向上や治療、回復支援の充実に向けた取組を推進します。
資料編		
P48 用語の定義	処方薬、市販薬 処方薬とは病院で処方された依存性の高い薬（睡眠薬、抗不安薬、鎮痛剤等）のことをさし、市販薬は、依存性の高い市販の薬（風邪薬、咳止め、鎮痛剤等）のことをさしています。	処方薬、市販薬 処方薬とは病院で処方された依存性の高い薬（睡眠薬、抗不安薬、鎮痛剤等）のことをさし、市販薬は、 目的外、目的以上に使用されることが多い薬（主に風邪薬、咳止め、鎮痛剤等） のことをさしています。
P49 法律、計画等の概要	堺市 SDG s 未来都市計画 2021 年度から 2023 年度までの 3 年間に優先的なゴールやターゲットに対する取組が示されている計画です。	文章追加：堺市 SDG s 未来都市計画 2021 年度から 2023 年度までの 3 年間に優先的なゴールやターゲットに対する取組が示されている計画です。 この計画は、2021 年 3 月に計画全体をゼロベースで見直し、新たに策定されています。
その他 ※言葉の変更等		
	すべての機会	さまざまな機会
	関係機関	関係機関 等 もしくは関係機関・ 団体
	早期治療（対処） 早期対処	早期治療 (介入) 早期 介入

堺市依存症地域支援計画概要版（案）

※委託業者（イラストレーター）によるデザインに変更

【その他、表現方法、言葉の精査による修正・追記】

旧	新
■表項のイラスト	
医療機関⇔相談機関・関係機関⇔自助団体・回復施設	依存症の支援機関⇔医療機関⇔地域の関係機関・団体
発生予防 進行予防 再発予防	削除
地域 所属（学校、職場等）	削除
■計画の基本理念	
■基本理念	■ 計画 の基本理念
■堺市の現状	
<p>薬物依存症</p> <p>こころの健康センター（専門相談）、保健センターにて相談を受けており、本人向けの回復プログラムや家族教室などを自助団体等と連携しながら実施している。相談の主流は覚醒剤だが、近年大麻や処方薬・市販薬などの相談も少なからず寄せられている。本市の何らかの薬物使用経験者の推計人数は 14,300 人。</p>	<p>薬物依存症</p> <p>こころの健康センター（専門相談）、保健センターにて相談を受けており、本人向けの回復プログラムや家族教室などを自助団体等と連携しながら実施しています。相談の主流は覚醒剤だが、近年大麻や処方薬・市販薬などの相談も少なからず寄せられている。</p> <p>・本市の何らかの薬物使用経験者の推計人数は 14,300 人</p>
<p>ギャンブル等依存症</p> <p>平成 30 年度からこころの健康センターにて専門相談を開設し、自助団体や司法関係機関等と連携し本人向けの回復プログラムや家族教室を実施。相談はパチンコ・スロットが半数以上を占めるが、競馬や競輪、競艇、FX など多岐にわたっている。本市のギャンブル等依存症が疑われる者（過去 1 年間）の推計人数は 12,800 人。</p>	<p>ギャンブル等依存症</p> <p>平成 30 年度からこころの健康センターにて専門相談を開設し、自助団体や司法関係機関等と連携しながら本人向けの回復プログラムや家族教室を実施しています。相談はパチンコ・スロットが半数以上を占めるが、競馬や競輪、競艇、FX など多岐にわたっている。</p> <p>・本市のギャンブル等依存症が疑われる者（過去 1 年間）の推計人数は 12,800 人</p>
■依存症対策に関する調査概要	
回収状況：配布数 5,000 通のうち回収数 2,234 通（有効回答率 44.7%）	回収状況：配布数 5,000 通のうち 有効回答数 2,234 通（有効回答率 44.7%）
<p>お酒について</p> <p>・飲酒経験者の約 28%は、飲酒により何らかの問題が生じている。ハイリスク飲酒者（アルコール健康障害のリスクを高める飲み方）の割合は、全体の約 22%。全国と比べるとハイリスク飲酒者が多い。</p>	<p>お酒について</p> <p>・飲酒経験者は全体の 88.2%であり、そのうち約 28%は、飲酒により何らかの問題が生じている。ハイリスク飲酒者（アルコール健康障害のリスクを高める飲み方）の割合は、全体の約 22%となっている。</p>

<p>くすり（薬物）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯での薬物使用経験者は2.4%。大麻（マリファナ）とシンナー（有機溶剤）が多い。 ・使用経験者の約62%が10歳代で開始。 	<p>くすり（薬物）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯での薬物使用経験者は2.4%であり、<u>薬物の種類では</u>大麻（マリファナ）とシンナー（有機溶剤）が多い。 ・使用経験者の<u>うちの</u>62%が10歳代で開始している。
<p>ギャンブル等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャンブル等経験者は全体の66.5%。特に多いのは「パチンコ・スロット」「宝くじ（ロト・ナンバーズを含む）」 ・ギャンブル等経験者の約半数以上が20歳代で開始。 	<p>ギャンブル等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャンブル等経験者は全体の66.5%であり、<u>ギャンブル等の種類は</u>「パチンコ・スロット」「宝くじ（ロト・ナンバーズを含む）」<u>「競馬」が多い。</u> ・ギャンブル等経験者の<u>うち82.4%が20歳代までに開始している。</u>
<p>依存症全般に関する市民の認識について（文中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依存症相談機関に12.6%が相談しないと回答。主な理由は、「自分（家族）の力で治せると思うから」「相談する必要性を感じないから」「依存症と認めたくないから」。 ・依存症の機関の認知度は約26%が「知っているものはない・わからない」 ・依存症支援に必要な対策として多いものは「専門病院等の増加、治療の充実」「回復支援、生活支援、就労支援等」「依存症に関する正しい知識の普及啓発」。 	<p>依存症全般に関する市民の認識について（文中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依存症相談機関に12.6%が相談しないと回答があり、主な理由は、「自分（家族）の力で治せると思うから」「相談する必要性を感じないから」「依存症と認めたくないから」<u>である。</u> ・依存症の機関の認知度は約26%が「知っているものはない・わからない」と回答している。 ・依存症支援に<u>必要な対策について</u>「専門病院等の増加、治療の充実」「回復支援、生活支援、就労支援等」「依存症に関する正しい知識の普及啓発」との回答が多い。
<p>■堺市の現状を踏まえた課題と検討すべき取組</p>	
<p>■堺市の現状を踏まえた検討すべき課題</p>	<p>■堺市の現状を踏まえた<u>課題と検討すべき取組</u></p>
<p>市民への依存症の理解促進と予防教育、早期発見・対処の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな機会を通じた啓発活動や若い世代を含む市民への予防教育 ・市民への依存症の理解促進を図り、誤解や偏見をなくすことで相談しやすい環境を整備 ・依存症に至る背景にあるさまざまな問題（家庭問題、学校問題等）に対して早期発見し、包括的に介入 	<p>市民への依存症の理解促進と予防教育、早期発見・<u>早期介入の推進</u></p> <p><u>調査結果より、依存症に対する正しい知識や情報が十分に伝わっておらず、誤解や偏見などによって相談につながりにくくなっている現状があります。依存症に至る背景にある問題や依存の問題に対して、早期に発見し対処できるように、誤解や偏見をなくす啓発や教育の取組を推進することが重要です。</u></p>
<p>専門医療機関、相談機関、福祉機関、自助団体等の充実および連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門医療機関や相談機関、福祉機関、自助団体等の支援体制の充実 ・地域の社会資源の情報を集約し、市民や関係機関に情報を発信 ・依存症の問題だけでなく、複合した問題にも対応するべく、さまざまな関係機関との連携を強化 	<p>専門医療機関、相談機関、福祉機関、自助団体等の充実および連携強化</p> <p><u>依存症の専門医療機関等が身近な場所に少ないこと、支援機関の周知が十分でないことから、本人・家族が治療や相談につながりにくくなっていることが考えられます。依存症のさまざまな支援機関を充実させ、地域の情報を積極的に発信していく取組が必要です。また、依存症の背景に複合した問題を抱えていることがあり、関係機関との連携強化も重要です。</u></p>

<p>依存症の相談に対応できる人材の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依存症支援機関における人材の養成 ・市民の身近にある相談窓口や支援者となり得るさまざまな関係機関において、丁寧かつ適切に対応できる人材の養成 	<p>依存症の相談に対応できる人材の養成</p> <p><u>調査結果より、本人や家族の相談や支援へのつながりにくさに加え、声かけや対応の仕方次第でさらに相談や支援から遠ざけ、回復の機会を逃してしまう可能性があることがわかりました。身近な支援者が依存症の知識を持ち、適切な対応ができるように人材の養成に取り組む必要があります。</u></p>
<p>■計画の目標</p>	
<p>—</p>	<p>■今後の目標</p>
<p>目標 2 さまざまな関係機関、団体が交流等をする場を作り、連携を強化する 評価指標 関係機関、団体との交流、情報共有、研修等の場の創設</p>	<p>目標 2 さまざまな関係機関・団体が交流等をする場を作り、連携を強化する 評価指標 関係機関・<u>団体</u>との交流、情報共有、研修等の場の創</p>
<p>目標 2 の下にあるイラスト内 地域の関係機関</p>	<p>地域の関係機関・<u>団体</u></p>
<p>■ 5つの基本方針</p>	
<p>基本方針 1（文中） 依存症は誰もがなり得るころの病気であり、~~~~誤解や偏見をなくしていくことをめざします。</p>	<p>基本方針 1（文中） 依存症は誰もがなり得るころの病気であり、~~~~誤解や偏見をなくして<u>いきます。</u></p>
<p>基本方針 2（文中） 市民が相談の機会を逃さず、~~~~早期に支援につながるよう啓発活動を充実させることをめざします。</p>	<p>基本方針 2（文中） 市民が相談の機会を逃さず、~~~~早期に支援につながるよう啓発活動を充実<u>させます。</u></p>
<p>基本方針 3（文中） 依存症の発生、進行、再発を予防するために、支援機関、庁内関係部署、地域の関係機関との連携強化を図り、市民のニーズにあった相談を受けることのできる体制の構築をめざします。</p>	<p>基本方針 3（文中） <u>市民のニーズにあった相談を受けることのできる体制構築のために、支援機関、庁内関係部署、地域の関係機関・団体との連携強化を図り、依存症の発生、進行、再発予防の取組を推進します。</u></p>
<p>基本方針 4（文中） 生活や就労等についての支援を保健や福祉等の身近な関係機関で受けられることのできるよう体制の構築をめざします。</p>	<p>基本方針 4（文中） 生活や就労<u>などの支援を保健福祉等の</u>身近な関係機関・<u>団体</u>で受けられることのできるよう体制を構築します。</p>
<p>基本方針 5 今後の新たな依存症対策にも対応できる体制整備を図る 依存症の問題は社会情勢にあわせて変化しているため、国の動向を踏まえつつ、関係機関との連携強化および依存症支援の拡充を図り、関係機関と協力しながら新たな依存に対応できる体制の構築をめざします。</p>	<p><u>基本方針 5 新たな依存症対策にも対応できる体制整備を図る</u> 依存症の問題は社会情勢にあわせて変化していることから、<u>新たな依存に対応していく必要があり、国の動向を踏まえつつ、関係機関・団体との連携強化や依存症支援の拡充などの体制整備を進めます。</u></p>

